

06 目標シート

活動団体名：北九州環境ビジネス推進会（KICS）

記入者名：KICS事務局員 竹内 眞介

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 北九州市第5次エネルギー基本計画における2030年までに実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減
- 北九州市の現在の人口：935,432人、将来：866,164人（2030年）、784,162人（2040年）※1
- 北九州市の地域の環境分野 温室効果ガス削減目標：
 - 2005年度比で2030年までに30%削減、2050年度までに国際協力分野も含めて200%以上削減 ※2
- 「蓄電システム先進都市」を目指した「再エネ100%北九州モデル」の新たな構築 ※3

②具体的な取組

1. プラットフォームの設置：北九州循環経済研究会の開催
2. 「社会循環」ビジネスの事業化：世界に先駆けたサーキュラー・エコノミーの地域モデル構築(仮)
3. 「自然循環」ビジネスの事業化：農業×福祉×環境×企業×ICT連携による持続可能な自然循環ビジネス
4. 「エネルギー循環」再エネ100%北九州モデルの推進
5. 「エネルギー循環」産業熱エネルギーシェアリングの事業化

①ありたい未来

世界から注目された北九州エコタウンの整備が始まって20年以上が経過し、各リサイクル企業は事業の高度化に向けて個別に取り組んできたところである。ところが昨今、世界の脱炭素社会や脱プラスチックを含む循環経済などに向けた潮流は、これまでの日本の循環型社会形成とは異なる基準で議論が進んでいる。そのようなグローバル環境問題に関する潮流を踏まえ、今後の北九州エコタウンの高度化及び地産地消のエネルギーや廃棄物を地域資源として取り込むことで北九州市ならではの地域循環共生圏を創造していくための「明日の北九州の環境産業ビジョン」を本事業で策定する。

ビジョン策定は、「社会循環」「自然循環」「エネルギー循環」の3つの循環で構成し、北九州エコタウンのサーキュラー・エコノミー化に取り組み、北九州エコタウンを北九州循環インダストリーパークへと進化させる。

また、SDGsや脱炭素化といった国際アジェンダへの貢献が見える化することで、世界に発信できるエコタウン・ブランドの更なる価値向上を達成する。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2021年度末)	実績値 (2021年度末)	単位
環境	①新たな使用済製品のリユース・リサイクル	使用済製品のリユース・リサイクル増加量	0	2		件
	②食品ロスの削減	食品ロス削減量(リサイクル量)	8,000	10,000		t/年
	③再エネ電源の取組	再エネ電源化導入施設数	0	200		施設
	④産業熱エネルギーシェアリング	シェアリング熱エネルギー増加量	95 (放熱)	5		Gcal/年
経済	①動静脈産業連携	動静脈産業連携件数	2	3		件
	②SDGsソーシャルファームへの企業誘致	企業誘致増加件数	0	3		件
	③ESG投資/サブスクリプションサービス	投資件数/サービス提供件数	2	5		件
	④発電所や工場での新規余熱利用	新規余熱利用量	0	1		件
社会	①障害者、高齢者の農業就業者雇用	雇用者増加人数	0	30		人
	②研究会の開催→ステークホルダーの巻き込み	研究会ステークホルダー数	40	50		社
	③有機系地域資源リサイクループ構築	有機系地域資源リサイクループ参加社数	65	75		社
	④放置竹林の減少	竹の増加利用量	50	65		t/年

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値 (2020年度)	目標値	目標年度 (例2025年度)	目標値 (期待値)	単位
環境	①蓄電システム先進都市	公共施設への再エネ導入施設数	0	2,000	2025年度	2,000	件
	②食品ロスの削減	食品ロス削減量(リサイクル量)	8,000	30,000	2025年度	40,000	t/年
	③再エネ100%電力化	民間施設RE100達成企業数	0	100	2025年度	200	社
	④工場余熱利用の企業間連携	連携を行う企業数	0	6	2025年度	10	社
経済	①サーキュラー・エコノミーの実装	動静脈産業連携件数	2	10	2025年度	20	件
	②SDGsソーシャルファーム北九州モデル実現	SDGsソーシャルファーム北九州モデル完成度合	0	100	2023年度	100	%
	③ESG投資/サブスクリプションサービス導入先進都市	投資件数/サービス提供件数	2	2,300	2025年度	2500	件
	④工場余熱利用による経費削減	経費削減額	0	700,000	2025年度	700,000	千円
社会	①新たな農業の担い手の創出	雇用者増加人数	0	500	2025年度	700	人
	②社会循環、自然循環、エネルギー循環の具現化	参加企業数	15	40	2025年度	50	社
	③資源循環型スマート・バリューチェーンの構築	スマート・バリューチェーン完成度合	0	100	2023年度	100	%
	④市民力と連携した放置竹林問題の解決	竹の増加利用量	50	500	2025年度	500	t/年

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

「明日の北九州の環境産業ビジョン」を実現化していくために、従来の環境産業の集積に加え、「社会循環」「自然循環」「エネルギー循環」の3つの循環における新規事業に取り組む。

バックカスティングで設定した長期目標を達成するための活動の第1歩として短期目標および短期指標を設定し、それを達成することによって長期目標のアウトカムにつながっていく。

※1 出典 人口（現在）：北九州市 出典 人口（2030年・2040年）：国立社会保障・人口問題研究所

※2 出典：北九州市環境基本計画 ※3 出典：令和3年2月北九州市発表内容